

【全体概要】

中山間地の農地を守るために、大台町ではエゴマの栽培振興に取り組んでいる。エゴマは獣害に強く、また健康志向から高付加価値が見込める作物として、平成27年度からJA女性部生産者グループ「奥伊勢えごま倶楽部」会員が中心となり栽培を開始し、平成29年度には、地域内に新たな搾油施設を整備、生産から搾油、販売に至る6次産業化に向けての取り組みを進めている。今後、中山間地農業のモデルとして、栽培技術向上により農業生産の安定化とブランド力向上を図り、農業経営安定による取り組み継続へと繋げる。

新品種・新技術等の概要

実需者からは、生産量の増大を強く求められている。

しかし、中山間地の限られた耕地面積での栽培であり、急速な栽培面積の拡大が困難であるため、単収の向上が早急に必要である。

単収向上の手段として、摘芯技術について、当地での環境に適応し、安定的に増収できる技術の確立を目指す。

本事業により、エゴマの摘芯増収技術について、産地・実需者のニーズを反映した技術を確立し、産地に導入する。

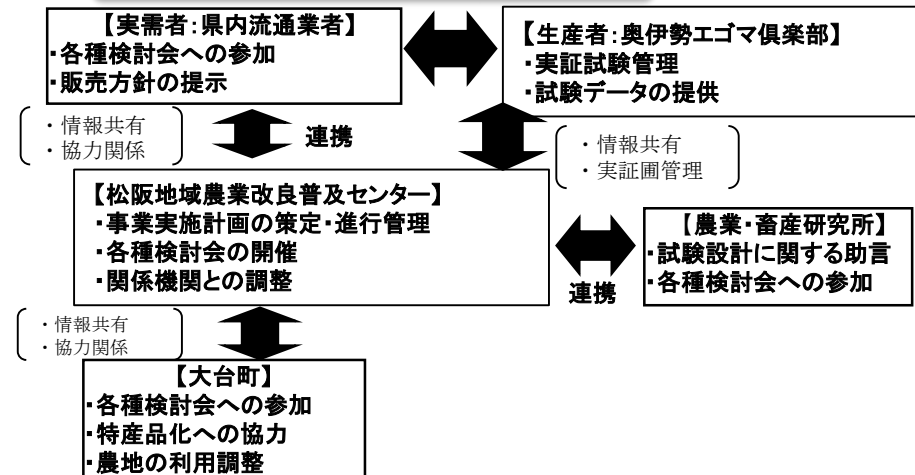
H30年度 実証圃の様子
上 摘芯時期の生育と、摘芯作業
下 収穫期



主な取組内容

- 栽培実証圃を設置し、以下の把握に努めた。
 - ・ 摘芯の有無による、生育（草高、花数）差の把握。
 - ・ 収穫時期と、収量差の把握。
- 上記実証圃調査結果を、作成した栽培マニュアルに反映した。
- 実需者（JA及びJA系列直売所）と連携した、販路拡大をおこなった。

実施体制図



課題と今後の対応

【実績】

・摘芯により草丈は変わらないが、花序数は増え、花序数(右写真赤丸)が増えることで株当たりの結実量が増えることが確認できた。

【今後の課題・展開】

- ・花序数を最大限増やすための摘芯時期や摘芯強度を次年度検討する。
- ・青枯病が多発拡大しており、防除対策検討のための実証圃を設置する。
- ・品質安定のため、優良更新種子確保が求められており、採種試験圃を設置し課題を整理する。

